船橋市教育委員会教育長賞

税金がつなぐ未来

船橋市立二宮中学校
第三学年　田中　芹菜

私の身の回りでは、「税金が高い」「何に使われているんだ」「無駄じゃないのか」など、税金に対するマイナスな言葉が多く聞こえてくる。インターネットでも税金への批判をよく目にする。そのため、私も以前は税金を生活の負担になるだけのものと思い、払いたくないと考えていた。

そんな私の考えが変わるきっかけになったのは、学校の体育館にエアコンが設置されたことだ。私が二年生になる頃には、体育館にエアコンが設置された。私はバスケットボール部に所属しており、それまでは夏になると体育館の中はとても暑く、熱中症警戒アラートが発表される日は部活動が中止になることも多くあった。

そのとき私は、ただ「涼しくなってよかった」としか思っていなかった。しかし、学校で税について学び、自分でも調べてみると、学校施設の整備や維持にも税金が使われていることを知った。近年の猛暑では、エアコンがなければ部活動ができない日が今よりも多かっただろう。そう考えると、毎日安心して練習できる環境は、多くの人が納めた税金によって支えられているのだと気づいた。

そして、今年の総体では、三年間を共にしてきた仲間と最後まで全力でプレーすることができた。最後まで悔いなくプレーできたことは、忘れられない思い出となった。

練習中にけがをして、病院へ行き、診察料が三百円ほどだったことをきっかけに、健康保険制度にも税金が使われていることを知った。その支えがあることで、必要な治療を受けることができる人がいるのだと思った。そして、私の大好きな部活動も、大切な健康も、目に見えないところで税金にしっかりと支えられていたのだと実感した。

さらに税金は、私たちの安全で快適な暮らしを支えている。災害時の復旧や避難所の整備にも税金は欠かせない。普段は目立たないが、私たちの生活は税金なしでは成り立たないことに気づいた。

もちろん、だからといって税金の使い方がすべて正しいとは思わない。無駄遣いがあれば改善する必要があるし、国や自治体には一円でも大切に使う責任がある。税金は国民が納めた大切なお金だからだ。だからこそ、私たちも「高い」「無駄だ」と言うだけで終わるのではなく、どのように使われているのかを知り、必要な使い方がされているのかに関心を持つことが大切なのではないかと思った。

私は、これからは税金のことを「払うだけのお金」と考えるのではなく、未来の社会や次の世代につながる大切な投資として考えたい。そして、大人になったら、今支えられている私が、今度は、誰かが安心して暮らせる社会を支える一人になりたい。そんな一人一人の思いが積み重なることで、「税金がつなぐ未来」が築かれていくのだと思う。